

令和3年度 普及活動成果集

めざそう！ 人がそだつ・つながる農業



福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

令和4年3月

新規就農者現地視察研修

大豆現地講習会

イチゴ栽培講習会

トルコギキョウ研究会現地検討会

イチジク生産工程管理勉強会

育成牛体格測定調査

はじめに

飯塚地域の農業者並びに関係機関の皆様には、平素より当普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。また、本年も新型コロナウイルス感染症拡大や気象災害が発生しました。農業経営への影響を受けられました皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。

さて、管内は福岡・北九州都市圏に隣接し、古くから良食味米の産地であるとともに、野菜、花き、果樹、畜産など多様な農業が営まれており、複合経営が盛んで、直売の割合が多い特徴があります。

このような中、それらの農業の担い手は、今後高齢化が進み減少することが懸念されます。そのため、個別経営体や組織経営体の経営力の強化、並びに新規就農者の確保・定着などを通して、飯塚地域の農業を魅力ある産業にしていくことが最も重要と考えます。

そのため、当普及指導センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画」の目標達成に向かって、「めざそう！人がそだつ・つながる農業」をスローガンに、職員25名が一丸となって、プロジェクト2課題、係単位11課題を設定して、「意欲ある担い手の育成・確保」「需要に応じた生産力の強化」に取り組みました。

活動にあたっては、県・市町・JA等の関係機関で構成する「飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会」と連携をとりながら、特に、どの部門においても若手農業者に重点を置いて、効果的かつ効率的な普及指導活動となるよう心掛けて進めて参りました。

令和3年度は前年度の経験を活かし、3密回避に向けて会場の設営や分散開催など「新型コロナウイルス感染症の拡大防止」対策に留意しながら、「マスクの下は笑顔」で活動を進めてきました。

また、5月の豪雨、8月の豪雨・長雨、9月の台風などへの対応は、迅速な情報発信や現場での適切な技術支援を、最大限寄り添う気持ちで努めました。

この成果集は、以上の取組の中から令和3年度までの成果についてとりまとめたもので、併せて主な表彰や地域のトピックス等についてもご紹介させていただきます。

ぜひとも、ご一読いただき、飯塚地域農業の振興と農業者の皆様方の経営改善の一助になれば、幸いです。

令和4年3月 福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

センター長 真鍋 泰之

目 次

1 令和3年気象・農業生産の概要

- (1) 気象概況 1
- (2) 農業生産の概況 3

2 普及活動の主な成果

- (1) 新規就農者育成のための研修機関の整備 8
- (2) 麦・大豆の収量、品質向上に向けた取り組み 9
- (3) イチゴ農家の個別目標達成への支援 10
- (4) リンドウ、シャクヤクによる中山間地域の生産振興 11
- (5) 施設栽培の推進によるイチジク産地の活性化 12
- (6) 酪農中長期計画に基づく実践支援 13
- (7) トピックス 14

3 各種表彰 17

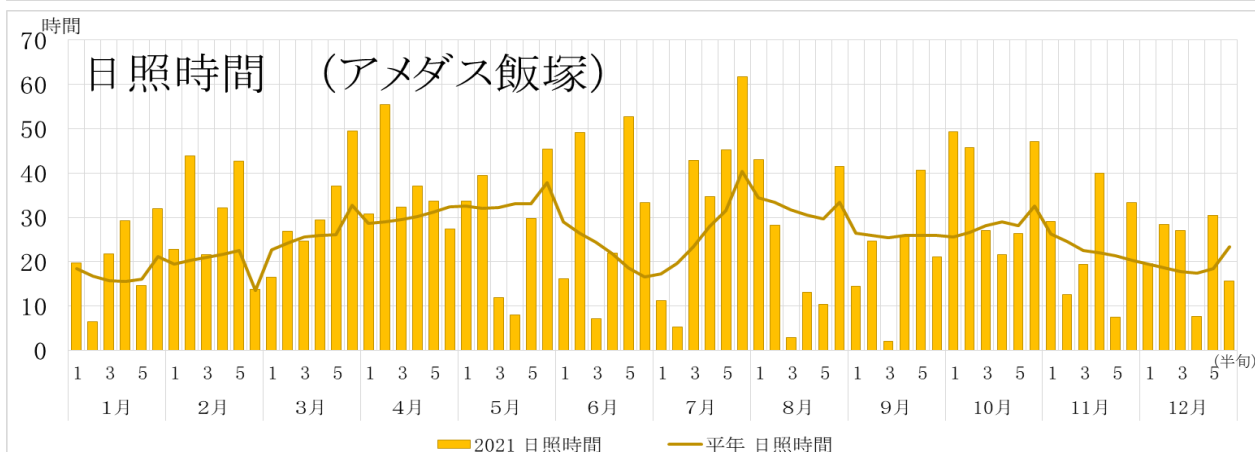
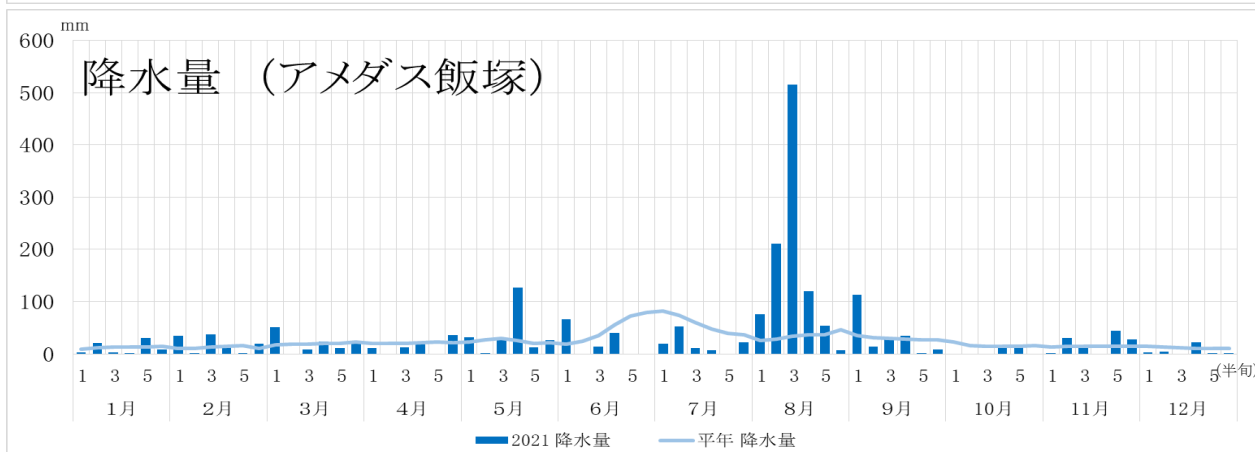
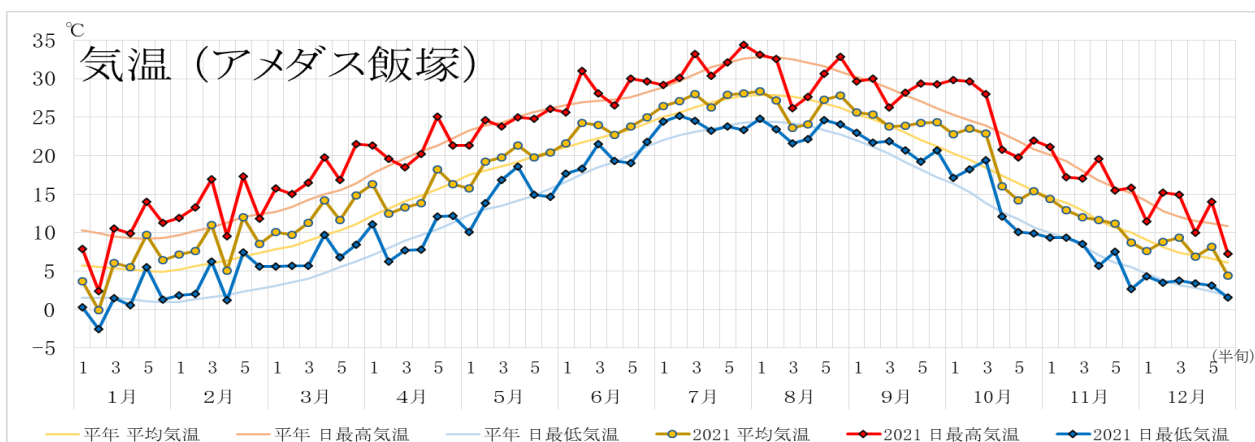
4 参考資料

- (1) 普及指導センターの活動体制 20
- (2) 現地実証・展示ほ一覽 21
- (3) 現地活動情報一覽 23
- (4) 普及指導員調査研究一覽 24
- (5) 飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会活動実績 25

1 令和3年気象・農業生産の概要

(1) 気象概況

令和3年は、1月中旬までは強い寒気が南下したため冷え込みました。1月下旬から4月にかけては気温が高い状態が続き、2月の平均気温は最も高いタイ記録、3月は最も高い記録となりました。5月以降の気温は平年並みかやや高くなり、梅雨入りは5月11日頃と平年（6月4日）に比べ3週間程度早まりましたが、梅雨時期の降水量は平年よりかなり少なくなりました。8月は前線が本州付近に停滞し長期間にわたって大雨が続き、統計開始以降最も多い降水量を観測し、この時期としては記録的な低温となりました。9月中旬までは台風や前線の影響を受け降水量が多く、日照時間は少なくなりました。10月は高気圧に覆われて晴れた日が多く日照時間はかなり多くなりました。11月から12月は気温が高い傾向となりました。（アメダス飯塚データ）



<気象災害>

令和3年は1月に最低気温-4.4度、積雪24cmを記録し、ハウスの倒壊、飼料倉庫の屋根崩落などの被害が発生しました。その後、5月には集中豪雨で麦の倒伏、8月の豪雨長雨により水稻・大豆・野菜等の冠水、ブドウ・イチジクの裂果等の被害が発生しました。また、9月には台風14号が上陸し、水稻・大豆等の倒伏被害が発生しました。

飯塚普及指導センターでは豪雨の発生、台風の接近、寒害・雪害などの発生が予想される時には、技術対策情報を生産者や関係機関あてに発信し、災害発生の軽減に努めました。今年発生した主要な気象災害は以下のとおりです。

表1 主な対象災害と影響

時 期	種 類	影 響
令和3年 1月8 ～10日	雪害・寒害 最低気温-4.4度 積雪24cm	<ul style="list-style-type: none"> 大雪で集乳車の交通困難・低温によるバルク冷却装置故障により生乳1,100L廃棄 積雪によるイチジク・アスパラガスハウスの倒壊等（面積35a） 積雪による飼料倉庫屋根の崩落（面積450㎡）など
5月20日	豪雨 降水量112.5mm	<ul style="list-style-type: none"> 小麦 50ha 倒伏 被害程度 多 大麦 10ha 倒伏 被害程度 多
8月11日 ～17日	豪雨・長雨 累計降水量 618mm	<ul style="list-style-type: none"> 水稻 45ha 冠水 大豆 200ha 畝間浸水～冠水 イチゴ苗・ネギ・コマツナ・トルコギキョウ等の冠水 1ha ブドウ・イチジクの裂果 18ha 牛舎等の一部崩壊、土砂流入
9月17日 ～18日	台風14号 降雨量 35mm 最大瞬間風速 21.0m/s	<ul style="list-style-type: none"> 水稻 強風による倒伏 290ha 被害程度 中 大豆 強風による倒伏 50ha 被害程度 中 ナシ 強風による落果 0.3ha 被害程度 微

※温度や風速の数値は全て飯塚アメダスデータを利用

※被害面積・件数は普及指導センター調べ

(2) 農業生産の概況

<普通作>

○冷夏とその後の少雨でやや不良となった水稻

早期水稻は、田植後の夜間の冷え込みにより植え痛みが発生しました。梅雨入りは5月11日頃、梅雨明けは7月13日頃と早くなりましたが、梅雨の期間は降雨が少なく、生育は良好でした。出穂期後の7月後半から8月6日頃までは好天に恵まれ、収量はやや多くなりましたが、8月中旬の大雨により、地域によっては倒伏が発生しました。



水稻の葉いもちの病斑

普通期水稻は、6月中旬と7月上旬の日照不足により、初期生育や分けつが抑制されました。その上、8月の大雨に伴う低温・日照不足により穂数、粒数が少なくなり、夢つくしの収量は少なくなりました。一方6月中旬以降に植えられた元気つくしやヒノヒカリ以降の品種では、粒の充実が良くなり、収量はやや多くなりました。

病害虫については、6月上旬頃からスクミリンゴガイの活動が活発になり、被害が拡大しました。いもち病は8月の大雨と低温の影響により、穂いもちの発生が多くなりました。また、大雨の影響で紋枯病の発生が多くなりました。トビイロウンカは、飛来時期が早かったものの、その後の飛来は少なく、坪枯れの被害はありませんでした。

品質については、倒伏した早期水稻での穂発芽、夢つくしで多発した穂枯れ症状、カメムシ多発地域での斑点米発生等で、ほ場によっては著しい品質低下が発生しました。

○生育は早く旺盛、登熟も良好で平年より多収となった麦（令和3年産）

播種は、11月10日頃から始まりました。11～12月は降雨が少なく順調に播種が進み、12月中旬頃に終了しました。11月末以降の播種では、気温の低下により発芽は遅れましたが、発芽率は良好でした。1月下旬以降、天候に恵まれ、生育は旺盛となりました。断続的な降雨はありましたが、追肥、土入れ、麦踏み等の管理作業は順調に行われました。3月上旬以降も気温は高く経過しましたので穂数は十分確保され、出穂期は平年より8～10日程度早くなりました。登熟期間は高温多照で経過し、子実の充実は良好でした。成熟期は、平年より4～6日程度早くなり、大麦では5月10日から、小麦は5月24日から収穫が始まりました。収穫時期に断続的な降雨はありましたが、ほぼ順調に収穫作業は行われました。

収量は、大麦、小麦共に平年より多く、昨年よりもやや多くなりました。また、赤かび病の発生は少なく、品質は良好でした。しかし、一部では大麦の網斑病や凍霜害の発生が見られました。

○播種時期は早くなったが、8月の大雨と10月の少雨により作柄は不良となった大豆

早播きの推進と播種適期の天候に恵まれたことから、播種作業は早いところで6月24日頃から始まり7月下旬頃にほぼ終了しました。8月の大雨により、冠水したり畝間に

水が数日間溜まったほ場では、下葉が枯れたり生育量が不足しました。また、9月下旬から10月までは降雨が少なく、過乾燥の状態が続きました。これらの影響で落葉は、播種時期よりもほ場の排水性や保水性の善し悪しで開始時期が異なりました。本格的な収穫は11月6日以降となりましたが、その後に断続的な降雨となりましたので収穫は12月中旬頃まで行われました。

病害虫では、ハスモンヨトウが8月下旬から発生しましたが、被害は少なめでした。

カメムシ類は9月下旬頃より発生が多くなり、落葉が遅くなるほ場が見られました。また、被害粒は昨年より多くなりました。

開花期前後の大雨と子実肥大期の乾燥により、大粒比率が低くなり、収量は平年より少なく、昨年並みとなりました。



大雨後の大豆の様子

<野菜>

○花芽分化に高温の影響を強く受けたイチゴ

育苗期は、前半の少雨、後半の大雨などにより充実不足が見られ、また一部では萎黄病や炭疽病が多発しました。花芽分化は、早期作型は概ね順調でしたが、普通促成では9月後半に高温が続いたため、9月25日以降の分化となりました。

定植後は、順調に生育しましたが、10月中旬まで高温が続いたため、2番花房の花芽分化が大幅に遅れました。出荷は11月上旬から始まり、小玉で推移し、年内収量はやや少なくなりました。2番果房の出蕾が遅れたため、3月から増加の見込みです。



定植後現地検討会の様子

○気象の変化にも耐え高収量となったアスパラガス

令和3年は12月からの低温で低温要求は前年より早く達成し、平年並みの蒸し込み開始となりました。2月以降は高温傾向が続き、順調な出荷となりました。立茎時期はやや低温傾向で曇天が多く心配されましたが、空梅雨で日照が多く、その後の生育も順調でした。8月の低温多雨により、一時生育は停滞しましたが、9月以降は高温乾燥傾向で順調に生育しました。

病害虫では、全般的に発生は少ない状況でしたが、一部のハウスでスリップスが多発し、9月中旬以降に斑点性病害の発生が多くなりました。適正な管理を行った結果、多収となりました。



高温対策で剪定の行き届いたハウス

○気象の影響を大きく受けたブロッコリー

7月までは気温が高く非常に乾燥しており、育苗では一部発芽不良や枯れの症状が見られました。8月の記録的な降雨、9月の台風及び降雨により定植ができない状況が続き、10月半ばまで定植がずれ込みました。変わって10月は降雨がなく乾燥し、11から12月は適度な降雨と温暖な気候となり、病害の発生は少ない状況でした。年末年始の気温の低下により、葉の変色や花蕾のシミなど寒害が発生しました。2月までの出荷量は、定植が遅れたこと、定植後の乾燥、冬期低温により生育が緩慢となり、例年より非常に少ない状況でした。



生育が緩慢なブロッコリー

<花き>

○安定価格の秋出荷トルコギキョウ

秋出荷トルコギキョウは、8月中旬以降の低日照等の影響で、チップバーン（葉先が枯れる生理障害）が多発しました。また、一部のほ場は、8月中旬の大雨により冠水しました。

草丈を確保するための摘蕾実施により、出荷開始は遅れましたが、栽培管理の徹底と10～11月の天候に恵まれたことで、良質なトルコギキョウが出荷できました。そのため、コロナ禍で業務需要が減少傾向にある中、価格は安定し、収益性は確保されました。



トルコギキョウ現地研修会

○前進開花した露地ギク

露地ギクは、定植後は平年より気温が高く推移したため、生育はおおむね順調でした。7～9月出荷については、春先からの高温・多日照により、出荷が前進化しました。9月以降の出荷については、8月中旬の大雨の影響により、多くのほ場で過湿による根傷みが発生し、出荷量は減少しました。病害虫については、全期間を通じてアザミウマ類の発生が多く品質の低下が見られました。



キク現地研修会

○中山間地期待の品目リンドウ

中山間地を中心にリンドウの推進を図っており、令和3年度は新規栽培者3名を含めて6名の生産者が栽培を行いました。

本品目は宿根草であり、初年度の株養成が重要な作業となります。6月下旬～7月下旬まで雨が少なかったため、新規栽培者については4月下旬の定植以降、乾燥防止や摘蕾作業の徹底を図ることで、株の養成を図りました。



リンドウの栽培ほ場

また、直轄地域ではJAによる共販出荷の取組も始まり、7～9月にかけて、2名の生産者が14,300本の出荷を行いました。

<果樹>

○開花期の降雨により露地栽培で結実不良が多発したブドウ

トンネル、露地栽培での発芽・展葉は3月21日頃と前年より5日程度早まりました。満開日も5月20日頃と7日程度早くなりました。露地栽培では、開花期である5月中下旬に降雨があったため、結実不良が多発し、昨年より収量が減った園が多くなりました。

6月～7月の乾燥により、果実はやや小さかったものの、生育の前進化も相まって着色・糖度の上昇は良好でした。また、8月の長雨により裂果や晩腐病が発生しました。

○夏季の長雨により疫病、裂果と小玉果が発生したイチジク

3月の気温が平年より高く、発芽は早くなりました。

着果量も多く、出荷開始時点では、肥大、品質とも良好でした。しかし、8月の長雨により、裂果、疫病が発生するとともに、根の活性が低下したことにより、果実の肥大が抑制され、小玉果が多発しました。

その後は出荷、品質ともに安定し、昨年をやや上回る出荷量になりました。



イチジク「とよみつひめ」

○やや小玉傾向であったものの、結実良好で出荷量が増加したナシ

2月から3月までの気温が高かったため、開花期は3月28日頃と平年に比べて10日程度早まりました。交配期の天候に恵まれたため、概ね結実は良好でした。

果実肥大は、6月から7月の降水量が少なかったため、「幸水」ではやや小玉傾向となりましたが、その後、8月の多雨により、「豊水」の肥大は平年並み程度まで回復しました。

一部、黒星病や吸蛾類等による被害も発生しましたが、全体的に病虫害や生理障害は少発生であり、前年よりも出荷量は増加しました。

○出荷数量が昨年に比べやや多かったカキ

生育は、満開期が5月16日と昨年より2日程度早く推移しました。着蕾は平年並で、種入りが良く生理落果も少なかったため着果数は多い状況でした。果実肥大は、平年並でしたが、秋季の高温の影響により着色が遅れ、軟果の発生も多く、出荷数量減少の大きな要因となりました。しかし、出荷数量は前年に比べるとやや多くなりました。

病虫害については、フジコナカイガラムシの発生が多く、カメムシの被害も一部認められました。



収穫前のカキ「富有」

<畜産>

○生乳出荷乳量の減少に歯止めがかからない酪農経営

担い手の高齢化、後継者が不足する中、初妊牛価格の高止まりや飼料価格高騰の影響を受け、管内の飼養戸数^{*1}は24戸（昨年比1戸減）、飼養頭数^{*2}は1,202頭（昨年比34頭減）に減少しています。

このため、令和3年の生乳出荷乳量^{*3}は、昨年より280t減の7,419tとなりました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で牛乳の消費が低迷しており、令和3年の取引乳価は夏場以降昨年を下回って推移しました。

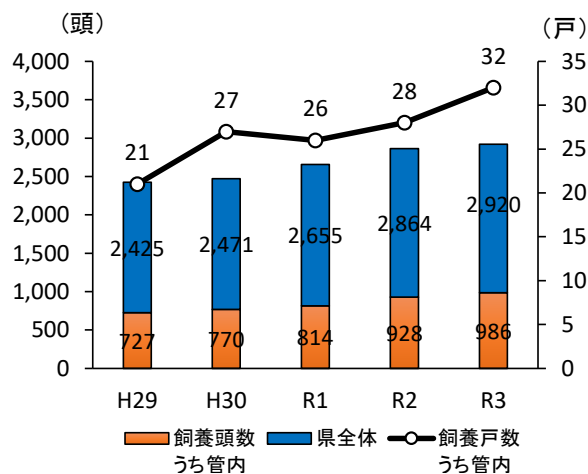
（*1、*2、*3はふくおか県酪協調べ）

○県内トップの主要産地に拡大した黒毛和種繁殖雌牛

和牛子牛価格が堅調に推移する中、和牛繁殖経営に転換する畜産農家が増えています。

管内の飼養戸数は32戸、繁殖雌牛頭数は986頭（県全体の30%）に拡大しており、県内トップの和牛子牛の主要産地となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年以下落した和牛子牛価格（スモール）は、堅調な枝肉相場に支えられ、V字回復しました。

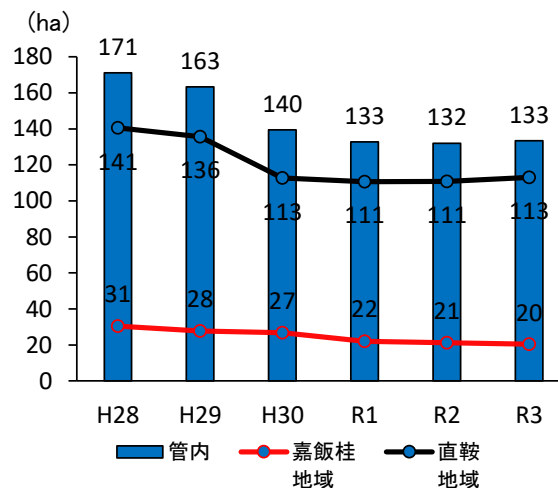


黒毛和種繁殖雌牛の飼養状況の推移

○作付面積は横ばいで推移する飼料用イネ

飼料用イネの作付面積は、平成28年の171haをピークに減少が続き、平成30年からほぼ横ばいで推移しており、令和3年は133haとなりました。

管内では、収量の少ない極晩生品種「つきすずか」を中心に作付けられてきましたが、令和3年から縞葉枯病の抵抗性が高い中生品種「つきあやか」とを組み合わせた作付けが始まりました。



飼料用イネ作付面積の推移

2 普及活動の主な成果

(1) 新規就農者育成のための研修機関の整備 (R2～)

○背景

新規就農者が定着し、農業経営を継続していくためには、安定的に農産物を生産・販売できる技術等の習得が必須条件となります。当センター管内には、農業次世代人材投資資金（準備型）の交付を受けながら農産物の生産・販売技術等を習得できる「県認定の研修機関」がなく、早急な設置が必要となっていました。

○対象概況

- ・嘉麻市農家創生協議会～市・JA・農業委員会・普及指導センターで構成
- ・新規就農者の育成に意欲のある先進農家等 5経営体（うち法人2経営体）
- ・研修機関での研修を希望する就農希望者

○活動内容

- 1 就農支援地域協議会の設立と研修機関設置
 - ・地域協議会の設立及び研修機関設置検討
R2：6回、R3：12回
 - ・先進地視察の実施（久留米市三潞地区）
R2：1回
 - ・研修機関認定支援 R2～R3：8回
- 2 先進農家等における研修機関設置
 - ・カリキュラムの作成等研修機関設置支援
R3：5経営体×5回（飯塚市、桂川町）
- 3 就農希望者の研修受入れ（写真1、2）
 - ・効果的な研修の実施支援
R3：3名×3回
（協議会1名、先進農家等2名）



写真1 果樹栽培技術研修の様子



写真2 就農支援地域協議会による研修実施状況の確認

○成果

- 1 嘉麻市農家創生協議会が就農支援地域協議会として研修機関に認定されました。
- 2 嘉麻市農家創生協議会の研修機関認定により、管内における新規就農者の育成機運が高まり、先進農家等5経営体が研修機関に認定されました。
- 3 就農希望者の個々の事情に応じて、研修機関での研修、農業大学校への進学を選択できるようになり、3名が研修機関での研修を開始しました。

○今後の取り組み

各研修機関での研修が効果的に行われ、就農準備が進むよう支援を継続します。

(2) 麦・大豆の収量、品質向上に向けた取り組み

○背景

管内は、鉱害復旧田や中山間地域等、条件不利な場が多く、麦・大豆の収量は県平均値に比べ低くなっています。また、集落営農法人、個別法人、大規模経営体の安定的な経営のためには、麦・大豆等の収量、品質の向上が不可欠です。特に麦類では、大麦「はるか二条」の安定生産と、小麦「ちくしW2号」「チクゴイズミ」のタンパク質含有率の向上、大豆では、収量低下の原因となっている「播種時期の遅れ」の対策が求められています。

○対象概況

・管内の麦・大豆生産者

麦：62 経営体 大豆：53 経営体

○活動内容

- 1 麦・大豆の収量、品質向上
 - ・麦栽培技術展示ほ（タンパク質含有率向上） 2カ所
 - ・大豆栽培技術展示ほ（部分浅耕播種） 2カ所
 - ・大豆「ちくしB5号」展示ほ 2カ所
 - ・パンフレット「大豆の早播き技術」（写真2）作成
 - ・栽培講習会（写真1） 5回
 - ・栽培管理情報の提供 7回



写真1 大豆収穫前講習会

○成果

- 1 令和3年産の大麦「はるか二条」は収穫期前後の降雨により、収量及び品質の低下が心配されました。しかし、栽培講習会や管理情報の提供を行い適期管理が実施されたことで、管内の平均収量は429 kg/10aと高く、安定した収量が確保され、品質も良好でした。
- 2 小麦「ちくしW2号」のタンパク質含有率向上については、対象となる農業者に対する個別の技術改善提案、穂揃期追肥の適期散布指導等により、10経営体中4経営体が目標12%を達成しました。
- 3 小麦「チクゴイズミ」については、タンパク含有率の低下により品質ランク区分BのJAがあったことから、穂揃い期追肥の実施を講習会等で推進したところ、本年はランク区分Aとなりました。
- 4 大豆は、パンフレット「大豆の早播き技術」を作成・配布することで、早播きを実施する経営体が5経営体から21経営体に増え、播種が適期より遅くなる面積の割合が90%から7%と大幅に減少しました。そのことから収量向上が期待されましたが、夏季の長雨と登熟期の乾燥により、収量は昨年並みとなりました。



写真2 大豆の早播き技術
パンフレット

○今後の取り組み

今回の結果を参考に、関係機関と連携しながら、引き続き栽培技術の支援を行い、麦と大豆の収量・品質向上に取り組めます。

(3) イチゴ農家の個別目標達成への支援

○背景

管内のイチゴ生産は、近年、農家子弟が後継者としてイチゴ部門を担う事例や、新規就農者が新たにイチゴ栽培を始める事例が増えています。そのため令和元年から2JAの部会活動支援、並びにイチゴ生産の青年農業者と新規就農者を対象に、基本的な栽培技術の習得を図ることを目的とした個別の目標に対する技術支援等を行いました。

○対象概況

- ・ J A直轄イチゴ部会 20名 5.6ha (うち青年農業者等 8名 2.5ha)
- ・ J Aふくおか嘉穂イチゴ部会 49名 8.1ha (うち青年農業者等 21名 4.4ha)

○活動内容

- 1 栽培技術の向上
 - ・ 技術改善目標の設定
 - ・ 栽培技術研修会 (写真1)
 - ・ 現地巡回指導
 - ・ 新規栽培者への重点指導
 - ・ ハウス内環境調査 (写真2)
 - ・ 新技術展示ほ
 - ・ 栽培管理情報 (毎月) の発行
- 2 経営意識の向上
 - ・ 個別面談
 - ・ 優良事例調査



写真1 イチゴ栽培講習会 (本ぼ管理)

○成果

- 1 青年農業者と新規就農者29名のうち、24戸が自ら改善目標設定を行いました。個別目標達成のための支援を行った結果、29戸のうちR2年度産までに19戸が前年度の収量を上回りました。
- 2 経営課題が生じた生産者9名を重点支援対象として個別面談、現地指導等の支援を行った結果、全員の課題が改善され、経営意識の向上が図られました。



写真2 ハウス内の環境測定値をスマホで確認

○今後の取り組み

個別課題設定を部会全体で取り組み、課題ごとに研修会の開催や情報の発信などの支援を行い、個別課題の改善による部会全体の収量・品質向上を図ります。

(4) リンドウ・シャクヤクによる中山間地域の生産振興

○背景

管内の中山間地域では、生産者の高齢化や露地ギクの単価低迷等により、花きの生産量、産出額の減少傾向が続いています。そこで、中山間地域の特性を生かし、露地ギクの代替品目としてリンドウと、県内有数の産地で有利販売が期待できるシャクヤクの生産振興を図りました。

○対象概況

- ・ J A直轄管内（宮若市）：リンドウ生産者3名（12a）、シャクヤク部会8名（144a）
- ・ J Aふくおか嘉穂管内（飯塚市、嘉麻市）：リンドウ生産者3名（13a）

○活動内容

- 1 生産面積の拡大
 - ・ 展示ほの設置（写真1）
 - ・ 広報誌での栽培推進
 - ・ 関係機関との推進方策検討
 - ・ 栽培推進資料の作成
- 2 品目導入者の定着
 - ・ リンドウ新規栽培者の現地巡回指導（写真2）
 - ・ シャクヤク部会現地検討会（写真3）
- 3 地域栽培指針の作成
 - ・ 地域版の栽培指針を更新



写真1 シャクヤクの鮮度保持試験



写真2 リンドウ新規栽培者

○成果

- 1 リンドウでは新規栽培者が3名（3a）増加しました。
- 2 既存の生産者においても新品種の導入等が進み、令和元年と比較してシャクヤクは36a、リンドウは10a生産面積が拡大しました。
- 3 今年度、リンドウを新規導入した生産者は、次年度さらに新品種を栽培予定であり、面積拡大が見込まれます。
- 4 既存の栽培指針を、地域特性に合わせ、単収・品質向上が図られる内容へ更新しました。



写真3 シャクヤク部会現地検討会

○今後の取り組み

新規栽培者に対しては定着に向けた栽培管理指導を徹底し、既存の生産者に対しては、単収・品質向上の支援を実施します。

(5) 施設栽培の推進によるイチジク産地の活性化

○背景

管内は、県内有数の「とよみつひめ」の産地で、出荷数量、販売金額ともに年々増加してきましたが、ここ数年は、気候変動の影響や露地栽培を中心とした樹勢低下等により、収量、品質の不安定化が問題になっています。また、栽培開始から一定期間が経過し、生産者の部会活動への参加意欲も低下しつつあることから、収量、品質の改善による商品力の向上および生産工程管理導入による部会活動の活性化に取り組みました。

○対象概況

- ・ J A直鞍いちじく部会 14名 1.2ha
- ・ J Aふくおか嘉穂いちじく部会 43名 7.4ha (うち、施設栽培面積の合計 4.2ha)

○活動内容

- 1 商品力の向上
 - ・ 栽培講習会 J A直鞍3回、
J Aふくおか嘉穂2回
 - ・ 重点農家巡回指導 10名×4回
 - ・ 戸別生産改善提案 34名×1回
 - ・ 施設栽培導入支援 4名×2回
- 2 部会活動の活性化
 - ・ 生産工程管理研究グループ 設立(3名)
 - ・ 生産工程管理勉強会 1回(写真1)



写真1 生産工程管理勉強会

○成果(表1)

前年と比較して

- 1 販売数量は105tで8t増加しました。
- 2 大玉率(L以上)は44%で、2%向上しました。
- 3 施設面積は4.5haとなり、32a増加しました。
- 4 生産工程管理研究グループの設立や勉強会の開催により、部会内に新たな活動目標ができ、部会活動が活性化しました。

表1 販売数量、大玉率、施設面積

	令和2年	令和3年
販売数量(t)	97	105
大玉率(%)	42	44
施設面積(ha)	4.2	4.5

○今後の取り組み

今後も、栽培技術支援や施設化推進の継続により商品力の向上を図るとともに、生産工程管理のグループ活動の成果を部会全体に波及させることで、さらに信頼されるイチジク産地の構築を目指して取り組みを進めます。

(6) 酪農中長期計画に基づく実践支援

○背景

管内の酪農経営は、担い手の高齢化、和牛繁殖経営への経営転換等により、R3年の飼養戸数は26戸、飼養頭数は1,202頭と戸数、頭数ともに10年前の6割まで減少しています。今後、酪農経営を継続していくには、経営基盤の強化を図るとともに老朽化した施設、機械の更新を計画的に取り組んでいく必要があります。そこで、経営改善意欲が高い酪農家を対象に自ら策定した酪農中長期計画（10年間）のうち2年目の戦略目標を達成していくため、関係機関が連携し支援しました。

○対象概況

- ・飯塚農林管内酪農家戸数 26戸
- うち経営改善意欲が高い酪農家戸数 15戸

○活動内容

- 1 酪農中長期計画の策定、実践の支援
 - ・実践状況調査 15戸×2回
 - ・個別巡回による現地指導 15戸×6回
 - ・関係機関による検討会 3回
 - ・畜産経営コンサルティング 10戸



写真1 個別巡回による現地指導

○成果

- 1 関係機関と連携し飼養管理技術の向上、繁殖成績の改善、乳房炎対策、暑熱対策、自給粗飼料の確保など個別の経営目標達成を支援しました。
- 2 中長期計画を策定した10戸（67%）の酪農家が、戦略目標を概ね達成できました（表1）。しかし、酪農家ごとに精査して見ると、繁殖成績の向上、良質な自給粗飼料の確保、人材確保・育成、生産工程管理体制の確立などの支援が今後の課題として残りました。
- 3 飼料価格が高騰し、更に肉用子牛価格が低下する中、10年後の経営ビジョンを実現するには、本計画の見直しが急務となっています。

表1 中長期計画実践状況

目標達成率	戸数
80%～	10 (67%)
50～80%	5 (33%)
合計	15

未達成項目	未達件数
施設整備・機械導入	6
繁殖成績の向上	4
良質な自給粗飼料の確保 人材確保、人材育成 農作業の省力化 生産工程管理体制の確立 飼養管理改善	2
乳房炎対策 暑熱対策 牛群改良	1

※複数回答あり

○今後の取り組み

コロナ禍に対応した本計画の再構築を図るとともに、経営ビジョン達成に向け関係機関が連携し、計画的、継続的に支援していきます。

(7) トピックス

ア 飯塚地区農村女性グループ連絡研究会視察研修会を開催

飯塚地区農村女性グループ連絡研究会（構成員39名、事務局：飯塚普及指導センター）では、会員の交流、資質向上を目的に、会員相互の視察研修会を実施しました。視察研修会では、コロナ対策を徹底した上で開催し、外国人技能実習生の導入や6次産業化、スマート農業等、多様な農業経営を実践されている会員を視察しました。（写真1、2）

参加者からは「普段見ることがない会員の経営を見られて勉強になった」、「経営の参考になった」と好評でした。また、「コロナ禍で会員との交流ができていなかったもので、互いの近況を知ることができて安心した」と、会員の交流が深まりました。

○今後の取り組み

今後も農村女性の活躍に向け、女性農業者の交流を支援していきます。



写真1 ハーブ園視察研修



写真2 農産加工研修

イ スマート農業機械の現地見学会を開催

管内の(株)遠藤農産および(株)あいはら農園は、令和2年度から国主催の「スマート農業実証プロジェクト」に参加し、スマート農業機械の現地実証に取り組みました。

この事業の一環で、12月1日（水）にロボットコンバインによる大豆収穫作業の現地見学会を開催しました。時々雨が降る悪い条件の中、農業者および関係機関約60名が見学会に参加しました。普及指導センターからは、現地実証の現在までの成果について報告し、クボタアグリサービス(株)からは、ロボットコンバインを



写真1 ロボットコンバインの実演

実際に動かしながら自動運転の設定や受信方法等の説明を行いました。（写真1）

雨の影響で、急遽水稲後のほ場を利用し、ロボットコンバインの実演（自動運転）を行いました。希望者は実際に試乗し、スマート農業機械の性能を実感してもらいました。

○今後の取り組み

今後も普及指導センターは、関係機関と協力しスマート農業を推進していきます。

ウ J A直轄なす部会で品種の変更と基肥一発肥料の検討

J A直轄なす部会は令和3年に品種を「大豊」から「筑陽」に変更しました。品種変更に伴い、定植前講習会と7月の現地検討会を実施し、栽培方法や品種特性の違いを確認しました。令和3年は前年より出荷量は18%増加、単価は4%増加しました。

また、労働時間削減と安定生産にむけて、基肥一発肥料の試験を行いました。夏秋なすは通常7月～10月にかけて10回程度の追肥をするため、大変な労力がかかります。

また、長雨等により追肥ができない場合は樹勢の低下がみられます。

今回の試験結果では、基肥施用のみで収穫終盤まで安定した樹勢を維持できました。

○今後の取り組み

今後も関係機関と連携し、栽培技術の向上による安定生産、品質向上に向けての取組を広めていくことで、生産者の経営改善を目指します。



写真1 なすの定植前講習会の様子

エ ブロッコリー部会の活性化に向けた研究会の取り組み

J Aふくおか嘉穂ブロッコリー部会では、所得向上を目指す研究会を発足しました。研究会では、収穫率の向上、作業の省力化等に関する栽培技術の有効性を検証します。

今年度はほ場の排水性の改善を目指し、携帯型穴掘機を用いた局所排水技術に取り組みました。



写真1 現地交流会の様子



写真2 携帯型穴掘機による排水穴

取り組んだ会員からは、水が抜けるのが早くなった、手軽にでき取り組みやすい、他品目にも応用が効くといった声が聞かれました。研究会は発足したばかりですが、活動を通して会員同士の意見交換が活発となり、技術向上や部会活性化が期待できます。

○今後の取り組み

研究会の取り組みを支援し、活動内容を部会へ波及することでブロッコリー部会全体の活性化を目指します。

オ 筑豊地域花き生産者連絡協議会が県庁飾花 300 回達成

10月13日県庁において、筑豊地域花き生産者連絡協議会の長年にわたる県庁飾花に対する謝意を伝えるため、知事から同協議会に感謝状が贈呈されました。(写真1)

筑豊地域花き生産者連絡協議会は、筑豊地域の花き振興のため、平成10年に生産者が主体となって立ち上げた組織です。会員の主な栽培品目は、トルコギキョウ、キクおよび草花類で、中でもトルコギキョウの栽培面積は筑豊地域全体で7.8ha(会員栽培面積約4.2ha)と、県内の約4割を占め、県内第1位の生産量となっています。

県庁飾花は、平成16年から取組を開始し、月に1回程度、県庁1階ロビーに筑豊の花を飾ってきました。

10月の飾花が300回目に当たるため、特別展示を10月11日～15日の期間行い、服部知事へはフラワーアレンジメントを贈呈しました(写真2)。

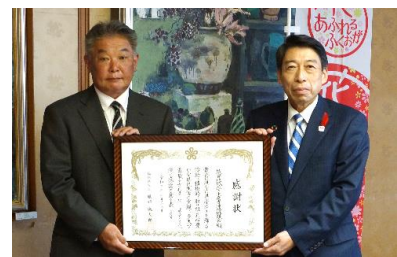


写真1 末継会長と服部知事



写真2 県庁ロビーの飾花とフラワーアレンジメント

○今後の取り組み

普及指導センターでは、今後とも協議会事務局の運営を通じて活動を支援することで、筑豊地域花きの産地活性化を図っていきます。

カ JA直鞍ブドウ部会員が福岡県GAP認証を取得

GAP（農業生産工程管理）とは、Good Agricultural Practice の略語であり、農業生産活動における食品安全、環境保全、労働安全等について持続的可能性を確保するために、点検項目に沿って各作業工程を記録、点検、評価する取組の事です。

今年度、JA直鞍ブドウ部会員である岡松英樹氏が、普及指導センターの支援の下、福岡県GAP認証の取得に向けて、県が定めた点検項目に沿って、倉庫や農薬保管庫の整理、ほ場位置図や機械点検表の作成等を行いました。その結果、令和3年11月24日に管内のブドウ生産者では初めて福岡県GAP認証を取得されました（写真1）。



写真1 岡松氏と福岡県GAP認定書

○今後の取り組み

今後も関係機関と連携し、管内の農家へ農業生産工程管理の取組を広めていくことで、安心・安全な農作物の生産や農家の経営改善を目指します。

キ 管内から肥育牛1頭を福岡プレ全共に出荷

令和4年10月に開催される第12回全国和牛能力共進会で24か月肥育技術を競う第8区（去勢肥育牛の部）への出品を目指す福岡プレ全共が開催されました。

福岡プレ全共には県内の16名の生産者が24頭の肥育牛を出荷しました。管内からは出荷した肥育牛は、24か月齢にもかかわらず枝肉重量468kg、A5等級と好成績でした。脂肪交雑（サシ）も良好でした。ただ、脂肪の質（オレイン酸含有率）が低かったことが今後の課題です。



写真1 24か月齢の出荷牛

○今後の取り組み

令和4年10月の全共には、県内から2頭の肥育牛が選抜され、福岡県の代表として出品されます。管内から全共への出品を目指し、引き続き肥育技術の向上のための支援を行っていきます。



写真2 A5等級の枝肉（B.M.S. No.11）

3 各種表彰

各種表彰(国・県)一覧

表彰事業名	受賞者 (敬称略)	受賞内容	市町名
令和3年度全国麦作共励会			
農家の部	(株) あいば農園	農林水産大臣賞	鞍手町
福岡県青年農業者会議			
意見発表の部	畠中 陸大 (嘉穂4HC)	優良賞	飯塚市
プロジェクト 発表の部	大塚 勝太郎 (嘉穂4HC)	優良賞	嘉麻市
第3回福岡県肉用種牛共進会			
第1区 (12~16カ月齢)	(株) 高手牧場	最優秀賞1席(県知事賞) 「まんかいざくら号」	桂川町
令和3年度福岡県花き品評会			
「技術・ほ場の部」			
トルコギキョウ	石田 豊隆	県知事賞 「ボンボヤージュホワイト」	直方市
「産物の部」	安田 一平	福岡県花き園芸連合会長賞 「クリスマスホーリー」	宮若市

令和3年度全国麦作共励会で農林水産大臣賞を受賞

株式会社あいば農園は、令和3年度全国麦作共励会において、農家の部で農林水産大臣賞を受賞されました。

代表取締役である相葉富雄氏は、平成24年10月に法人化後、農地の集積を進め、現在は水稻約16ha、大豆約27ha、麦類約24ha、契約キャベツ75aを経営する大規模経営体です。規模拡大に合わせ、常時雇用による労働力確保、団地化や栽培面積に応じたGPS搭載機を含む大型機械の導入、畦畔除去等によるレーザーレベラーを用いた圃場の大区画化を進め、安定的かつ効率的な作業体制を構築しています。

麦類の栽培については、大豆収穫直後から排水対策を徹底することで降雨後も速やかに播種可能とし、初期生育量を確保する等、麦が生育しやすい圃場づくりを実践しています。また、地域農地の集積率は50%を超えており、「水稻単作」と「大豆-麦類」の2パターンの作付け体系をそれぞれ3年間連作し、3年毎にローテーションを行う方式を組んでおり、畑地化による転作作物の生産性向上を図っています。これらの結果、JA平均を大きく上回る反収を確保し、品質も良好であったことが評価されての受賞でした。



受賞された相葉代表取締役

嘉穂地区農業青年クラブ連絡協議会 畠中大陸氏、大塚勝太郎氏

福岡県青年農業者会議において、2部門で優良賞のW受賞

令和4年2月1日、オンライン開催された福岡県青年農業者会議において、県下全域の農業青年クラブ連絡協議会（以下4Hクラブ）代表者による意見発表、プロジェクト発表が行われました。意見発表の部において、嘉穂4Hクラブの畠中大陸氏、プロジェクト発表の部において、同クラブの大塚勝太郎氏の両氏が優良賞を受賞しました。

畠中氏は、「3代目として」という課題名で、就農までの経緯や将来に向けてのビジョンを堂々と発表し、高い評価を得ました。

大塚氏は、「両親からの経営継承を目指して」と題して、就農以降行ってきた経営規模の拡大や品目構成見直しの取り組みについて発表し、経営分析に基づいた経営改善の手法や、発表後の質疑に対する的確な応答が高く評価されました。

大塚氏は、次年度に福岡県で開催される九州・沖縄地区青年農業者会議に福岡県代表として出場する予定です。



優秀賞に輝いた畠中氏（左）、大塚氏（右）

第3回福岡県肉用種牛共進会「第1区」で最優秀賞1席を受賞

令和3年11月13日に、福岡県農業大学校のグラウンドで、県内の黒毛和種の育種改良と繁殖農家の改良意欲の向上及び安定した和牛繁殖経営の実現を目的に、第3回福岡県肉用種牛共進会が令開催されました。

本大会では、県内から第1区（12カ月齢～16カ月齢）に雌牛13頭、第2区（17月齢～20カ月齢）に雌牛7頭の出品がありました。

当管内から出品された第1区の「まんかいざくら号」（株）高手牧場（桂川町）が、最優秀賞1席（県知事賞）を受賞しました。

講評では、月齢に応じた順調な発育で、特に体の深み、伸びがよく体積があり、体の前中後躯の力強さ、繁殖雌牛としての品位・資質等が優れていると高く評価されました。

前回に引き続き、2回目の受賞となりますが、さらに生産者の改良意欲が高まり、和牛の育種改良が一層促進されるものと期待されています。



最優秀賞1席を受賞した「まんかいざくら号」

令和3年度福岡県花き品評会「技術・ほ場の部」で県知事賞を受賞

花あふれるふくおか推進協議会では、花き生産の推進を目的に、栽培ほ場の品評会を行い、栽培技術が優れた生産者を表彰しています。今回、技術・ほ場（秋出しトルコギキョウ）の部で、直方市の石田豊隆氏が、白色の八重品種「ボンボヤージュホワイト」で県知事賞を受賞しました。

石田氏は、秋出しのトルコギキョウにイチゴとメロンを組み合わせた複合経営です。

今年は定植後の高温というトルコギキョウの生育に不利な条件にもかかわらず、高品質な切り花が生産出来ました。

毎年、実需者の要望をふまえた品種選定、独自の土づくり、良質苗の生産、生育段階に適した栽培管理の徹底、鮮度保持に配慮した出荷を行っています。今回は、これらのことが高く評価されての受賞となりました。

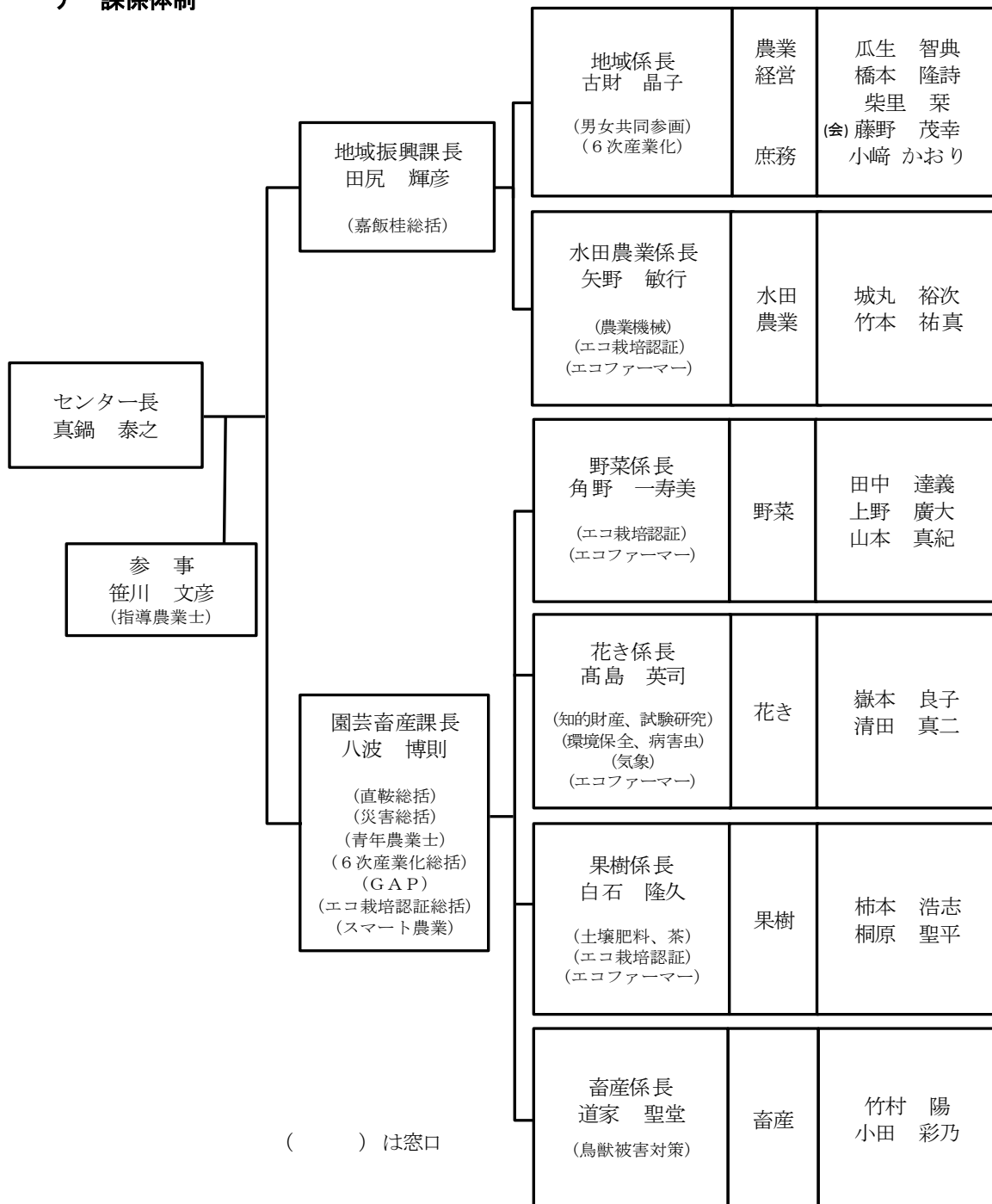


受賞した石田氏（左）と受賞ほ場（右）

4 参考資料

(1) 普及指導センターの活動体制

ア 課係体制



※(会)は、会計年度任用職員

イ 班活動の体制

- (ア) センター内運営事項による分掌 (推進班)
 - 経営体育成推進班、担い手育成推進班、
 - 情報活用推進班、安全・安心農畜産物推進班
- (イ) 地域班
 - 嘉飯桂地域班、直鞍地域班

(2) 現地実証・展示ほ一覧

No.	品目	課題名	結果の概要	場所
1	水稻	後半肥効型の緩効性肥料による「夢つくし」の収量向上効果を検討	試験区と慣行区で肥効の差は判然としなかった。これは、地力の高いほ場での試験となったため、肥料効果の差が表れにくかったためだと考えられた。	直方市
2		新規有機入り緩効性肥料の効果を「元気つくし」で検討	既存の有機入り緩効性肥料と比較し、収量・品質ともに同等以上の結果であった。	飯塚市
3		無人ロボット田植機を現地実証	8条の無人ロボット田植機は、慣行の10条田植機と比較して運転者が必要なく作業員を4名から3名に削減できるため、作業時間を7%削減できた。	鞍手町
4	大豆	新品種「ちくしB5号」の栽培適性を確認	フクユタカに比べ、草丈はやや低く、成熟期は2日程度早かった。大粒比率は高い傾向が見られたが、収量及び品質に大きな差は認めなかった。	鞍手町 飯塚市
5		土壌改良剤「土力の素」の効果を検討	2カ年現地実証を行った結果、莢数の増加に伴いやや増収が見られた。	宮若市
6		適期播種技術「部分浅耕播種」の実証	管内2カ所で部分浅耕播種の実証試験を行った。宮若市では慣行区に比べ主茎長が短く、分枝は少なく収量はやや低かった。嘉麻市では播種法による違いは見られなかった。	宮若市 嘉麻市
7	麦	ドローンを活用した「ラー麦」のタンパク質含有率の向上効果を検討	穂孕期～出穂期に、ドローンによるセンシング（NDVI値を測定）を行った結果、収量に対する相関は認められたが、タンパク質含有率の向上効果については、判然としなかった。	鞍手町
8	野菜	ブロッコリー生産におけるパッケージセンター活用の有用性の検証	県北地区広域販売センターを活用することで調整作業にかかる労働時間の縮減が図られ、粗収益は増加するが、1日の出荷量と県北VFセンターへの運搬時間（距離）によっては収益性が低下することが判明した。出荷量と運搬時間を考慮する必要がある。	直方市 鞍手町 小竹町
9		夏秋ナスのパッケージセンター利用による有用性について	県北地区広域販売センターを活用した場合、調整時間の削減が図られ、整枝など適期に作業ができることが判明した。今年度は、JAの市場単価が高かったため、収益性はJA出荷のほうが高かった。	宮若市

No.	品目	課題名	結果の概要	場所
10	野菜	白ネギの新産地育成のための品種選定	飯塚地域での栽培における品種の特性を確認でき、産地育成のための課題整理ができた。	飯塚市
11		アスパラガスハウス内の夏季昇温抑制技術としての遮光剤塗布処理の実証	雨除ビニルへの遮光剤の塗布は、温度降下効果があり、夏季高温対策として有効である。	嘉麻市
12	花き	ホオズキ定植苗の種類及び品種が品質及び収益性に及ぼす影響	着色については農大系統と在来系統で着色率80%となり、姫提灯の70%より優れていた。白絹病の発生は挿し芽苗区で遅い傾向にあった。規格別出荷割合に基づく収益性の試算では、在来系の収益性が最も高かった。	飯塚市
13		ガーベラの長日処理が品質と収量に与える影響の検証	長日処理した電照区の方では切り花長が長く、採花本数も多かった。奇形花についても電照区の方では奇形花が少なく、奇形の程度も少ない傾向にあった。	嘉麻市
14		中山間地におけるリンドウ栽培の実証	新規栽培者3名について、土づくり、定植、防除、摘蕾等の時期別管理について個別に現地検討を実施し、地域栽培指針の作成を行った。	飯塚市 宮若市 嘉麻市
15		シャクヤクの鮮度保持剤による開花・日持ち性の検討	日持ち性向上のために主要品種における鮮度保持剤の効果について検討した。結果として、適期の切り前と考えられていた状態でも、開花がばらつき、そのことにより、日持ち性も大きな差が出ることがわかった。	宮若市
16	果樹	フジコナカイガラムシの交信攪乱剤を設置した「カキ」ほ場の実態調査	「カキ」園への交信攪乱剤の設置により、フジコナカイガラムシの防除効果が向上した。特に越冬密度が低く、初期防除を行った区で最も効果が高かった。	飯塚市
17		施設ブドウにおける土壌水分の可視化と裂果対策の検討	ブドウ園の細かい土壌水分管理をしたことで、pF値の変動が少なくなり裂果割合が減少した。裂果対策に土壌水分の管理が重要なことが判った。	飯塚市

(3) 現地活動情報一覧

No.	タイトル
1	直鞍のシャクヤク 出荷ピークを迎える！！
2	直鞍、嘉穂4Hクラブ合同研修会をオンラインにて開催
3	リンドウの産地拡大を目指して!!
4	スマート農業機械による自動運転作業を現地実証
5	夏秋なすの新たな挑戦！！
6	農薬の安全で効果的な使用に関する研修会を開催！
7	ブドウ部会で先進技術現地講習会を開催
8	わが家の経営の数字を把握し、経営改善に繋げよう
9	高品質なイチジク「とよみつひめ」の出荷に向けて
10	大豆の収量、品質向上をめざして
11	新規のカンキツ産地育成！！
12	イチジクの出荷順調に進む！！
13	飼料用米の新品種「みなちから」の採種の取り組み
14	筑豊花き生産者連絡協議会が県庁飾花300回達成
15	飯塚地区高校生農業セミナーを開催
16	良質な稲 WCS 自給粗飼料確保の取り組み
17	筑豊花き生産者連絡協議会トルコギキョウ研究会が現地研修会を開催
18	飯塚地区新規就農者のつどい・現地視察研修を開催
19	普通作技術研修会の開催
20	花き生産者現地視察を開催

No.	タイトル
21	管内から肥育牛1頭を福岡プレ全共に出荷
22	飯塚地区高校生農業セミナーを開催
23	飯塚地区農村女性グループ連絡研究会視察研修会を開催
24	スマート農業機械の現地見学会を開催
25	白ねぎの食味比較調査を行いました！
26	経営者育成塾視察研修・交流会を開催
27	JA直鞍ブドウ部会員が福岡県GAP認証を取得!!
28	第3回福岡県肉用種牛共進会で最優秀賞1席を受賞！
29	インボイス制度の研修会を開催
30	筑豊地区農業青年等合同発表大会を開催！
31	地域ブランド「金川牛」の枝肉成績の向上
32	女性農村アドバイザー・若手女性農業者研修会を開催
33	営農基礎講座「農業機械研修」の開催
34	農業生産工程管理研修を開催

(令和4年2月発行まで)

(4) 普及指導員調査研究一覧

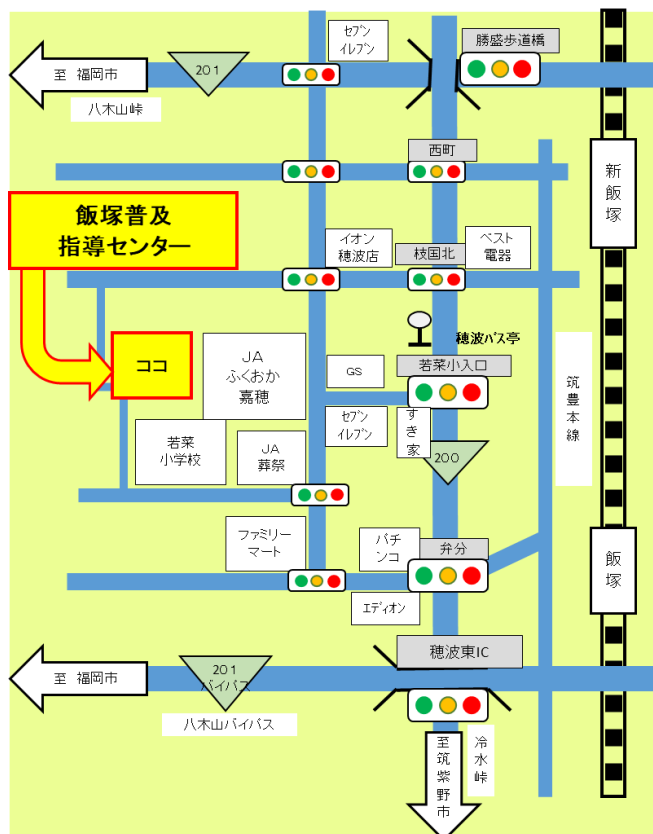
(○印は、主担当者)

No.	課題名	概要	部門	担当者
1	ビジネスプラン作成者への継続的なフォローアップ手法の課題整理	県域アカデミー及び飯塚地域の経営者育成塾の修了生（ビジネスプラン作成者）に対する支援体制及びフォローアップの内容や実施方法を調査研究し、具体的な継続支援の在り方についてまとめた。	地域	古財 ○瓜生 橋本 柴里
2	土地利用型大規模経営におけるスマート農業技術体系の実証	無人ロボット田植機及び普通型ロボットコンバインの実用性について実証を行った。ロボット田植機は、高い精度を維持しつつ労働時間の削減、作業者の労働負担が軽減できた。ロボットコンバインは、高い精度で作業でき、労働者の負担を軽減できた。一般の機械より高く生産コストが高くなることが課題である。	水田	○矢野 城丸 竹本
3	ブロッコリー生産におけるパッケージセンター活用の有用性の検証	県北VFセンターを活用することで調整作業にかかる労働時間の縮減が図られ、粗収益は増加するが、1日の出荷量と県北VFセンターへの運搬時間（距離）によっては収益性が低下することが判明した。出荷量と運搬時間を考慮する必要がある。	野菜	角野
4	アスパラガスハウス内の夏季昇温抑制技術としての遮光剤塗布処理の実証	雨除ビニルへの遮光剤の塗布は、温度降下効果があり、夏季高温対策として有効である。		田中
5	白ネギの新産地育成のための品種選定	飯塚地域での栽培における品種の特性を確認でき、産地育成のための課題整理ができた。		山本
6	管内における切り枝栽培の実態把握と栽培技術の調査	管内で栽培されている主要な切り枝類の栽培について、管内の生産者の栽培管理、出荷規格等を参考にし、切り枝栽培指針を作成した。	花き	高島 ○嶽本
7	ガーベラの長日処理が品質と収量に与える影響の検証	長日処理した電照区の方では切り花長が長く、採花本数も多かった。奇形花についても電照区の方では奇形花が少なく、奇形の程度も少ない傾向にあった。		高島 ○清田
8	「カキ」フジコナカイガラムシの交信攪乱剤を設置した圃場の実態調査	交信攪乱剤を設置した試験区は、フジコナカイガラムシの越冬密度が低く、生育期の密度抑制の効果も高かった。特に、令和3年3月に初期防除を行った試験区で密度抑制の効果は高かった。	果樹	白石
9	有機配合肥効調節型肥料の基肥一発施用が2年生「玉水」の生育に及ぼす影響	肥効調節型肥料の基肥一発施用は、慣行肥料の分施と概ね同程度の効果があり、コストも削減できる。		柿本
10	血統、母牛登録点数子牛の生育と販売価格の相関検証	黒毛和種子牛の血統や発育状態、母牛（登録得点）との関係を取りまとめて分析し、市場性の高い子牛生産について検討を行った。	畜産	竹村
11	周産期におけるグリセリン飼料等の投与による予防効果の検証	プロピレングリコールの経口投与に追加でグリセリン飼料を給与すると、ケトシスや脂肪肝などの周産期疾患の予防、産乳量の低下防止、初回授精日数の遅延防止に有効であった。また、ペレット化したグリセリン飼料は、配合飼料やTMRなどに添加しやすいので普及性は高い。		道家

(5) 飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会活動実績

部会	課題・計画		内容	
担い手育成	新規就農	新規就農者の確保と就農計画達成を支援	市町における就農支援体制の整備を支援したほか、就農相談会、高校生セミナーの開催、就農計画作成支援により、新規就農者の確保を図った。また、営農基礎講座、研修会を開催し、計画達成を支援した。	
		女性農業者リーダーの育成	リーダー育成のため、研修会等を開催した。	
	水田農業	水田農業の担い手育成	税制（インボイス制度導入）研修会を開催したほか、各組織・経営体の課題解決を支援した。	
		水田農業の担い手の経営安定を支援		
農業経営指導	認定農業者の経営発展を支援		経営改善計画策定支援や中間相談会により、経営発展を支援した。	
	個別農家の技術・経営面の課題に対する経営改善を支援		カウンセリング・コンサルテーションを行い、経営改善を支援した。	
	規模拡大、法人経営を目指す企業の経営体を育成		経営者としての意識醸成・意欲向上を図るため、専門家派遣、経営研修会、経営者育成塾、経営管理講座を開催した。	
生産振興	農業生産工程管理に基づく経営発展を支援		農業生産工程管理研修会を開催して、意識の醸成を図った。	
	普通作	水稻・新規需要米の高品質安定生産技術の確立	適期移植、病虫害防除、施肥改善による高品質安定生産技術を検討した。	
		麦・大豆の収量・品質向上技術の確立	講習会開催、情報提供、展示ほ設置による収量・品質向上技術の確立を図った。	
		スマート農業を活用した経営改善への取組み	スマート農業の実証に取組んだほか、情報提供、勉強会を開催した。	
	野菜	野菜産地強化計画の目標達成を支援	計画の進捗管理と品目別の課題解決の検討を行った。	
		振興品目の作付け推進、各品目の生産性向上を支援	栽培講習会開催、情報提供、展示ほ設置、先進地視察等を実施し、生産性向上を支援した。	
		安全・安心な野菜生産を支援	農業生産工程管理について、生産者、関係機関と連携しながら検討・推進した。	
	花き	花き産地強化計画の目標達成を支援	目標に沿った活動と進行管理を行い、目標達成を支援した。	
		若手生産者の経営確立	課題解決のため個別面談、視察を開催し、経営確立に向けた取組を支援した。	
		中山間地の特性を活かした品目の作付け拡大	リンドウ、シャクヤクについて現地検討会、展示ほ設置による作付け拡大を図った。	
	果樹	果樹産地構造改革計画の推進		果樹産地構造改革計画の進行管理を行った。
		新品種の導入・定着を推進		新品種の情報収集や展示ほ設置により普及拡大を図った。
		安定生産に向けた栽培技術の確立		栽培講習会、展示ほ設置及び先進地視察により栽培技術の改善を図った。
		安心・安全な果実の生産推進		農業生産工程管理について啓発活動を行った。
	畜産	持続性の高い酪農家の生産改善を支援		経営改善に意欲的な酪農家の中長期計画実践を支援した。
		繁殖和牛の繁殖成績と子牛の増体量の改善		繁殖牛及び生産子牛の飼養管理改善を支援した。

周辺地図



庁舎への交通アクセス

車

八木山バイパス「穂波東IC」から約1.2km
「若菜小入口」交差点から約750m

JR

福北ゆたか線飯塚駅または新飯塚駅下車
タクシー約10分

西鉄バス

穂波バス停から徒歩約10分
「若菜小入口」交差点から約500m

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

〒820-0089 福岡県飯塚市小正 319-1

TEL : (0948) 23-4154

FAX : (0948) 29-4866

E-Mail : iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

HP : <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704804/>

福岡県行政資料

分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703419	03	0002